

公益財団法人 檜山奨学財団奨学金給与規程

第1章 総 則

(奨学生の資格)

第 1 条 本会の奨学生となるものは、大学に在学する者（国費及び政府派遣の外国人留学生をのぞく）又は大学院に在学する私費外国人留学生で学業、人物とも優秀かつ健康であって、学資の支弁が困難と認められるものでなければならない。ただし、大学院に在学する私費外国人留学生については他の育英奨学事業を行う財団等から奨学金の給与を受けていない者。

(奨学生の種類)

第 2 条 奨学生の種類は、大学奨学生及び大学院奨学生とする。

(奨学金の額)

第 3 条 奨学生に給与する奨学金の額は、次のとおりとする。

奨学生の種類	給与月額
大学奨学生	40,000円
大学院奨学生	120,000円

2. 他の育英奨学事業を行う財団等から奨学金の給与を受ける大学奨学生に対しては、前項の奨学金の額を減額して給与することができる。

(奨学金の給与期間)

第 4 条 前条の奨学金を給与する期間は、正規の最短修業年限の終期までとする。ただし、大学院奨学生に対しては2カ年を限度とする。

第2章 奨学生の採用と奨学金の交付

(奨学生願書及び奨学生推薦書の提出)

第 5 条 奨学生志望者は、本会あての奨学請願書に、在学学校長の推薦書及び在学証明者を添えて本会に提出するものとする。

(奨学生の採用)

第 6 条 奨学生の採用は、奨学生選考委員会の選考を経て、理事長が決定し、その結果を在学学校長を経て、本人に通知する。

2. 奨学生として採用された者は、前項の通知を受けた日から14日以内に保証人と連署した誓約書を理事長あて提出しなければならない。

(奨学金の交付)

第 7 条 奨学金は、毎月分一定日に交付するものとし、特別の事情があるときは、2ヵ月分以上を合わせて交付することができる。

2. 奨学金の交付は、直接本人に送金して行うものとする。

(奨学金受領書の提出)

第 8 条 奨学金の交付を受けた奨学生は、その都度、直ちに奨学金受領書を提出しなければならない。

(学業成績及び生活状況の報告)

第 9 条 奨学生は、毎年度末、学業成績、学生生活及び生活状況報告書を理事長あて提出しなければならない。

(異動届出)

第 10 条 奨学生は、次の各号の一に該当する場合は、直ちに届けなければならない。ただし、奨学生が病気その他の事由により届け出ることができないときは、保証人が届け出るものとする。

- (1) 休学・転学または退学したとき、又は長期にわたって欠席しようとするとき。
- (2) 停学・その他の処分を受けたとき。
- (3) 氏名・住所・その他重要な事項に変更のあったとき。

(奨学金の休止及び停止)

第 11 条 奨学生が休学し、又は長期にわたって欠席したときは、奨学金の交付を休止する。

2. 奨学生の学業又は性行などの状況により指導上必要があると認めるときは、奨学金の交付を停止する。

(奨学金の復活)

第 12 条 前条の規定により奨学金の交付を休止又は停止された者が、その事由が

止んで在学学校長を経て願い出たときは、奨学金の交付を復活することがある。

(奨学金の廃止)

第 13 条 奨学生が次の各号の一に該当すると認めるときは、在学学校長の意見を徴して奨学金の交付を廃止する。

- (1) 傷い疾病などのため成業の見込みがなくなったとき。
- (2) 学業成績又は操行が不良となったとき。
- (3) 奨学金を必要としない理由が生じたとき。
- (4) 前各号のほか、奨学生として適当でない事実があったとき。
- (5) 在学学校で処分を受け学籍を失ったとき。
- (6) その他、第 2 条に規定する奨学生としての資格を失ったとき。

(奨学金の辞退)

第 14 条 奨学生は、いつでも在学学校長を経て奨学金の辞退を申し出ることができる。

第 3 章 奨学生の指導

(奨学生の指導)

第 15 条 奨学生の資質の向上を図るため、学業成績及び生活状況に応ずる適切な指導を行うものとする。

第 4 章 補 則

(実施細目)

第 16 条 この規程の実施について必要な事項は、別に定める。

